

令和3年度 白川郷学園研究構想

【学園の児童生徒の実態】

- ふるさと白川郷の自然やくらしに興味をもち、意欲的に活動に取り組む姿がある。
- ICTを活用するなど、自分の考えを豊かに表現できる。
- △自ら問題を見いだしたり、問題の解決方法を考えたりする姿に弱さが見られる。

【学校教育目標】

ひとりだち

自立 共生 貢献

【今後求められるもの】

- ・ふるさと白川郷で培ってきた知識や技能を土台として、社会や人生をより豊かなものにしていく力の育成。
- ・困難にぶつかったとき、自ら解決方法を考え、問題を解決しようと粘り強く取り組む姿。

【「ひとりだち」の児童生徒像】

- ①自立…意欲的に学び、より質の高いものを自ら求め続ける子
- ②共生…対話的に学び、仲間と協力して活動する子
- ③貢献…深く学び、仲間・地域のために行動する子

【教育目標達成のために、全教育活動を通して育てたい資質能力：先を読む力】

先を読む力とは、児童生徒が主体的に問題解決の方法を生み出していく力である。この力は、教師が手立てを与えすぎるとは培われることはない。全教育活動を通して、児童生徒が、これまでに身に付けた既習内容や生活経験、様々な見方・考え方を駆使して、仲間との対話をしながら試行錯誤する営みを繰り返す中で、培われるものであると捉えている。

【研究主題】 「先を読む力」を発揮し、学びを加速させる姿を目指して

【研究仮説】

一人一人が、生活経験や既習内容を基に多様な見方・考え方を働かせて、様々な問題の解決方法を生み出していく力（先を読む力）を発揮して、試行錯誤を繰り返しながら、問題解決に粘り強く取り組んでいる姿（学びを加速させる姿）を具現化する指導を継続すれば、先行き不透明な社会においても、自分の力でよりよい未来を切り拓いていける「ひとりだち」した子を育成することができる。

【研究内容】

- (1) 主体的に問題を見いだす導入の工夫
- (2) 自ら解決方法を生み出す学習活動の工夫
- (3) 自己の学びを自覚する終末の工夫

【研究の具体的方途】

- (1) 主体的に問題を見いだす導入の工夫
 - 「おどろき」「ぎもん」「あこがれ」を引き出す資料提示や問いの工夫
- (2) 自ら解決方法を生み出す学習活動の工夫
 - 自己の考えをつくる学習支援ツールの活用
 - 多様な解決方法を生み出す対話の形態の工夫
 - 学びを加速させるきっかけをつくる問いの工夫
- (3) 自己の学びを自覚する終末の工夫
 - 「わかった」「できた」を実感したり、次への見通しをもったりする場の工夫